

産衛だより

平成 22 年度第 3 回理事会議事録

日 時：平成 22 年 9 月 4 日（土）13：00～17：00

場 所：日本公衆衛生協会ビル 3F 会議室

出席者：大前和幸（理事長）、岡田 章（副理事長）、相澤好治、五十嵐千代、大久保靖司、大脇多美代、加地正伸、加藤 元、川上憲人、清田典宏、日下幸則、小林章雄、斉藤政彦、住徳松子、諏訪園靖、角田 透、昇淳一郎、原田規章、東 敏昭、広瀬俊雄、廣部一彦、堀江正知、柳澤裕之、山田誠二、吉田 勉（以上理事）、圓藤吟史、中明賢二（監事）

欠席者：荻野景規、岸 玲子、實成文彦、高橋英尚、本橋 豊（委任状あり）：荻野景規、岸 玲子、實成文彦、高橋英尚

理事出席者 25 名、委任状 4 名であることから、定款第 36 条および第 29 条により、理事会が成立していることを確認した。今回オブザーバーとして参加していただいた高橋 謙教授（産業医科大学）が紹介された。議事録署名人に、昇淳一郎、原田規章の両理事が指名された。

審議事項

- 平成 22 年度第 2 回理事会議事録について
開催日時の曜日を訂正して、了承された。
- 法人改革について
大前理事長より、会員に提示した定款案等についてはまだ意見が集まらないこと等、経過報告がなされた。前理事会で各理事に依頼された各規定見直しについては、次回理事会までに原案を作成し、事前にメールにて送付することが求められた。内閣府から法人移行申請は早めにとの連絡もあり、準備を進める必要がある。定款案等についての学会員への周知には学会誌掲載も検討する。
広瀬理事より、4 部会の規定については文言統一等を図るため、一旦広瀬理事まで送付することが求められた。
- 2014 年の ACOH 日本招致について
オブザーバーとして参加の高橋謙教授より、ACOH の概要、招致の企画（日程、会場、演台数）、予算概算等の説明がなされた。本学会が招致する意義について質問がなされ、ACOH は日本が設立当初イニシアチブをとって設立したアジアで唯一の労働衛生分野の学会であり、前回の日本での開催から 30 年以上経ていること、日本がアジア地域の産業保健のリーダーシップをとるという姿勢を見せる絶好の機会であり他国からの期待もあること、本学会のノウハウを用いてアジアの労働衛生に貢献できること、等の回答がなされた。これらを踏まえ、学会として ACOH を招致することが了承された。招致に際しては、高橋教授が ACOH 主宰となり、同時に高橋教授は AAOH の慣例により 2014 年 AAOH 理事長となることが確認された。日本産業衛生学会理事長は別途、ACOH 主催学会の代表として責任ある立場につくこととなる。

招致に伴う本学会からの予算措置については、次回理事会以降審議することとした。高橋教授には、学会員への説明のための資料作成が求められた。高橋教授には次回理事会にも出席を要請し、招致活動費の平成 23 年度予算への計上他について審議することとなった。また、招致委員会を立ち上げ、高橋教授に加え、日下理事、東理事が参加することとした。また、各部会から意見を集約できるようメンバーを集め、組織委員会を構成していただくこととした。

- 働く人を喫煙と受動喫煙の害から守るための禁煙宣言（案）について

川上総務担当理事より、職域における喫煙対策研究会より提出された宣言（案）について説明がなされた。各理事より、学会の宣言としては適切ではない可能生のある表現、表現の工夫の必要性のある記述、この他で盛り込むべき事項、専門医委員会との関連で検討すべき事柄、等の指摘がなされた。これらを踏まえ、この宣言に関しては、理事会でワーキンググループを立ち上げて、次回理事会までに草案を作成し、総会に諮るべく検討することとした。ワーキンググループには、加藤理事（取りまとめ役）、広瀬理事、東理事、住徳理事がメンバーとなり、必要に応じて他の理事も参加することとなった。

- 第 3 回国際産業看護・第 2 回アジア産業看護ジョイント学術集会について

五十嵐産業看護部会担当理事より、平成 22 年 8 月に開催された会について、演題数、参加者数も予想を超え、参加国は 24 ヶ国と広く国際情勢を踏まえた第一線の参加者が集まり、充実した会となったことが報告された。財務的にも見直し努力した結果、赤字に転換する見込みであることが報告された。ただし、参加者が増えたことから、業務委託費が増え多少の赤字になる可能性があるため、収支確定後、再び理事会に報告してもらおうこととなった。また本学術集会からは領収書を含む経理書類を提出いただき、公認会計士のチェックを受けるものとする。

- 産業看護職法制化について

五十嵐労働衛生法制度委員会委員長より、法制度委員会では、ひとまずこれまでの検討の報告書を学会誌イエローページに掲載することが報告された。

広瀬理事より、産業医部会での検討内容が報告された。産業医のあり方・研修・育成の方向性と、他の産業保健職との連携の強化について、産業医部会としての考え方が説明され、看護職の法制化については賛成であり、今後連携協議して進めていきたいとの提案がなされた。この内容については、産業医部会として学会誌イエローページに掲載することが報告された。

五十嵐理事より、産業医部会の提案を持ち帰り検討を進めると述べられた。また前回理事会での提案も合わせて踏まえ、今後の方向性としては、新しいメンバーを集めてワーキンググループを立ち上げ、他職種も含めた広い枠組みで、法制度のあり方、あるべき産業保健の姿を検討し、その結果を理事会に提出すると述べられた。

7. 再雇用職員の就業に関する規程について
大久保総務担当理事より、前回理事会の審議を経て修正した規程案が提示され、内容が了承された。制定日と施行日はともに平成 22 年 9 月 4 日と定められた。
8. 表彰制度について
川上総務担当理事より、現在の候補者数（奨励賞 1、功労賞 1、名誉会員 1、学会賞なし）が報告された。候補者少数につき、募集期間を 11 月 30 日まで延長することとなった。HP や産業衛生学雑誌にも募集案内を出すなどして、積極的に候補者を募集することが推奨された。
9. 次回理事会開催予定について
今回は平成 22 年 12 月 25 日（土）であり、終了後参加可能な者により懇親会を行うこととした。次々回（合同理事会）は平成 23 年 4 月 2 日（土）の予定。
10. その他
大久保総務担当理事より、職員の就業規則改定についての提案がなされた。主な変更点 2 点（年度を会計年度に合わせることで 3 月 1 日～2 月末日とすること、お盆休み（3 日間）を追加すること）が説明され、異議はなく、改定を進めることが了解された。

報告事項

1. 第 83 回日本産業衛生学会報告
日下企画運営委員長より、収支概算が報告された。現在公認会計士のチェック中であり、最終結果は次回理事会に報告書が提出される。
2. 第 84 回日本産業衛生学会準備状況の報告
角田企画運営委員長より、プログラム委員会での内容についての検討、実行委員会、企画運営委員会の委嘱依頼手続き等が進行中であることが報告された。第 3 報の情報が次号の学会誌（52 巻 5 号）に掲載される。
3. 第 20 回産業界・産業看護全国協議会報告
清田企画運営委員長より、現在の申込状況が報告された。（事前申込：248 名、懇親会：73 名、4 部会合同セミナー：40 名（満員につき締切）、リレワークショップ：43 名）
4. 第 21 回産業界・産業看護全国協議会報告
住徳理事より、第 1 案のポスター案を基に、メインテーマ、キャッチコピー等が報告された。今回から協議会の英語表記が記載されているが、この英語表記に関して正式名称かどうかを確認することとした。
5. 4 部会報告
広瀬理事より、『日本産業衛生学会産業界・産業看護全国協議会リレワークショップ「働く人の健康（元気）」を生み出す組織（職場）づくり』のまとめ』を資料として使いやすいよう作成したことが報告され、公式使用時には連絡を、との呼びかけがなされた。
6. 産業界部会報告
広瀬理事より、部会報が紹介され、また幹事会で作成した資料「産業界にかかわる急速な変更が産業界にもたらす混乱に対する懸念」について説明がなされた。昨今次々に公表された産業界に関する行政指導に伴い現場が混乱していること、今後現場（部会員）の意見を吸い上げ、医部会としての見解を意見表明すべく取り組んでいる状況が報告された。
7. 産業看護部会報告
住徳理事より、部会員数（1,200 名）、事業報告（雑誌発行、産業看護口座基礎コース開催）等が報告された。また、第 3 回国際産業看護・第 2 回アジア産業看護ジョイント学術集会の最終報告は次回理事会で報告される予定。
8. 産業衛生技術部会報告
堀江理事より、関東地方会の衛生技術セミナーを平成 22 年 9 月 3 日に実施したこと、幹事会が 10 月 2 日に開催される予定であることが報告された。
9. 産業歯科保健部会報告
加藤理事より、部会員数（230 名）、事業予定（第 20 回産業界・産業看護全国協議会におけるフォーラム、平成 22 年度後期研修会）等が報告された。
10. 専門医制度委員会報告
山田理事より、登録者数（指導医 278 名、専門医 159 名、研修登録医 392 名）、平成 23 年度専門医試験日程（案）（平成 23 年 8 月 27 日・28 日）、資格更新スケジュールが報告された。委員の任期について、学会の年度にあわせて 3 月 1 日～2 月末日と変更したいとの要望が述べられ、現在の委員の任期を変更した辞令が発行されることとなった。また、新しい専攻医試験についてのプロジェクトチームが発足しており、できるだけ早く新しい専門医制度に移行したいと述べられた。
11. 中央選挙管理委員会報告
吉田中央選挙管理委員長より、各選挙について、規定に則って順調に進行中であることが報告された。地方会代議員数定数は合計 644 名。いずれの選挙結果についても、12 月 31 日までに中央選挙管理委員会まで報告することが求められた。また、各地方会の代議員選出方法について調査する予定であり、各担当への協力が呼びかけられた。
12. 産業保健推進センター縮小に反対する東北地方会役員会声明
広瀬理事より、産業保健推進センターの縮小に対して、東北地方会役員会で議論した結果をとりまとめ、東北地方会役員会声明として発信することが報告された。
13. IT 担当理事報告
諏訪園 IT 担当理事より、WEB サイトの移行状況について報告がなされた。名簿サーバの移行が遅れており急いでいること、選挙に関連しては関東地方会の理事選挙において電子投票が行われるため調整中であること等が報告された。各部会や研究会の HP を学会サーバに置くことは可能かとの質問がなされ、ある程度形式は限られるが可能だと思ふとの回答があり、ライセンスを確認の上そのように進めたいと述べられた。
14. 事務所改装について
大久保総務担当理事より、前回の了承を受け事務所の改装を行なったことが報告された。収納スペースを大幅に増加し、事務用スペースを確保したこと、今後学会員用のスペースも

確保する予定であること等が報告された。

15. 担当理事報告

- ①五十嵐産業看護部会担当理事より、保健師助産師看護師法の改正に伴う看護基礎教育の大幅改正の内容について報告された。看護部会としても、行政の動きを見ながら専門看護職制度のあり方について検討を始めるところであると述べられた。
- ②広瀬理事より、平成22年6月26日に開催された「石綿関連4学会連絡会」について、動向、資料作成、「Q&A」誌の普及状況及び計画、連絡会開催等が報告された。会計については別途相談を続けると述べられた。
- ③川上編集委員長より、JOHの新WEB投稿システムは予定通り10月1日より導入予定であり、次号の学会誌(52巻5号)に投稿用のマニュアル(日本語)が掲載されることが報告された。
- ④角田経理担当理事より、法人改革に関連して依頼した平成20年度及び平成21年度の会計証拠書類は、各部会、地方会、委員会、研究会のほとんどの会から提出されたことが報告された。また、積立金の規定の整備を急ぎ、次回理事会に提出したいと述べられた。

16. 公的委員会等情報報告

堀江理事より、厚生労働省「職場におけるメンタルヘルス対策検討会」の審議経過について報告がなされた。同委員会では短期間で審議が重ねられ、基本方針等について大まかな合意があったものの、数日前に提示された報告書(案)では、審議内容と異なる報告がなされているとのことである。報告書(案)の内容について各自確認し、具体的手段に多くの問題があり、現場ではうまく機能しそうでないという予測、その結果労働者本人にメリットが発生しないであろう懸念、等の指摘が相次いだ。

日本産業衛生学会としては受け入れられない提言であるため、至急メール審議を行い、理事会有志声名文書を作成することとなった。堀江理事、川上理事、五十嵐理事が文書案を作成する。理事全員の同意が得られれば、理事会声名とする。

17. 研究会世話人交代について

- 川上総務担当理事より、以下の2件が報告された。
- ・産業疫学研究会 新代表世話人：諏訪園靖氏

・産業保健情報・政策研究会 新代表世話人：昇淳一郎氏

18. 会員の状況

川上総務担当理事より、報告がなされた。
(正会員数：7,445人/平成22年8月25日現在)

19. 日本アルコール精神医学会作成の啓発用のリーフレットの推薦について

川上総務担当理事より、日本アルコール精神医学会より、アルコール関連問題への介入ツールとして作成したリーフレットについて、推薦の依頼があったことが報告された。内容を確認し、推薦することが了承された。一部内容についてなされた指摘は、参考意見として日本アルコール精神医学会に申し添えることとした。

20. 協賛・後援等

川上理事より、以下の4件が報告された。

- ・第38回産業医学講習会(後援)
- ・第20回国際コンタミネーションコントロールシンポジウム(ISCC2010)(協賛)
- ・第34回人間-生活環境系シンポジウム(協賛)
- ・第50回日本労働衛生工学会(協賛)

21. その他

なし。

平成22年度新入会者

[北海道] 青木陽一郎, 水野芳子, 渡辺良忠 [青森] 岡田 元
[宮城] 櫛田正江 [秋田] 久村欽弥 [茨城] 皆藤公子, 藤井博
[群馬] 柳屋憲充 [埼玉] 青木怜子, 池田真弓, 川端宏之,
広瀬由香, 丸山義明 [千葉] 中村 均 [東京] 芥川 愛, 市岡春菜,
市川富美子, 宇都宮由佳, 大高 芸, 葛西博子, 川島隆二,
高元礼衣子, 千葉恵子, 根本 博, 初鹿静江, 堀部崇大,
横山えりな, 米澤弥生 [神奈川] 山口敦子 [長野] 小山智典
[静岡] 井上朋子, 高比良有香 [愛知] 浅岡 剛, 川村展弘,
坂部 司, 鶴田美紀 [三重] 世古口和代 [滋賀] 川島恵美, 河田志帆,
中島明日香, 和田教義 [大阪] 奥田寛之, 春藤行敏, 谷本正俊,
堀谷昌彦, 宮本秀子 [和歌山] 北野尚美 [岡山] 葛西洋介,
頼藤貴志 [福岡] 粟生修司, 生井久子 [宮崎] 山内武紀